季刊
AMDA
多様性の共存
Journal

2008年8月1日 VOL.31No.3 定価600円
発行／AMDA 〒701-1202 岡山市楢津310-1
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail:member@amda.or.jp

2008.8
SUMMER
夏

国民参加型相互扶助人道支援外交

緊急救援センター 救える命があればどこへでも

ミャンマー・サイクロン被害に対する緊急支援活動

5月2日夜から3日にかけてミャンマー南部を直撃した、大型サイクロン・ナーギス（Nargis）。AMDAは、ミャンマーで長期事業を実施している特定非営利活動法人AMDA社会開発機構（旧 特定非営利活動法人アムダ海外事業本部）と連携し、5日、情報の収集と現地調査を開始しました。

ミャンマー保健省が、国際NGOに所属する外国人医療従事者に対し、被災地における診療活動を許可したのは、今回AMDAが初めてでした（政府間合意に基づくケースは、アセアン各国や日本などであります）。5月11日から6月16日までに診療した患者数・健診数は、計6，225人（患者数6，110人十健康診断115人）に上りました。主な活動内容は、AMDAホームページ又はAMDAダイジェスト（2008年7月NO.30号）をご参照下さい。

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
http://www.amda.or.jp/
特定非営利活動法人AMDA社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター
http://homepage3.nifty.com/amdack/

民家を借りて診療

「海外への災害支援に対する考えが変わった」

寺戸 通久 救急医
（岡山大学医療教育統合開発センター医学教育部門 助教・岡山大学病院救急科）

AMDAと岡山大学との間の支援協定に基づき参加しましたが、私にとってミャンマーという国やサイクロン被害に関してはTVやwebなどのニュースソースレベルの知識しかなく、とても縁遠いものでした。今回の派遣にあたり、正直、かなり戸惑いを憶えたのも記憶しています。私はかねてから、海外援助に関しては「日本の救急・災害医療供給体制すら満足とは言えない状態であるのに、敢えて国外の災害地まで出向いて医療支援を行う意味があるのか？ まず国内の医療を十分に安定供給できるようにするのが先決で、更に余力があればその時初めて国外に目を向けることを考えても良いのではないのか？」という考えを持っていました。しかし、今回の支援活動を経験した後、この考えは改めざるを得ませんでした。なぜか。まず、私の見た被災地クンジャンゴン市の情景を点描してみます。…

一面の田園地帯。家々のほとんどは椰子の葉などで屋根を葺いているニッパハウス。木材やトタンなどで壁や屋根を覆っている家は裕福な家か。災害後残存した家々は全て同じ方向に根太ごと傾いている。防風林として植えているのか、椰子林が点在しているが、高さ数mから上は削ぎ落としたように幹や枝が吹き飛んでいる。幹の残っている高さまで洪水が押し寄せ、水面から顔を覗かせていた枝葉が全て暴風でなぎ倒されたのだという。道路は基本的に粘土と砂利を固めた簡易舗装道で、乾燥すれば土埃が舞い、雨が降れば泥濘と化す。現地は雨期。我々が巡回診療に向う先へ続く道は、それが道なのか沼なのか、田なのか区別がつかない。救援物資配給のための軍用トラックが頻繁に通り抜けていく。積荷は飲料水であったり、耕耘機であったり。徒歩すら拒む道なき道を移動できる唯一の手段が耕耘機だという。巡回診療先では、被災後1ヵ月を経過していたとあって、慢性疾患、呼吸器や皮膚の感染症、初期に十分な処置を行えていなかった外傷患者が目立つ。生まれて初めて医師に出会った被災者、数年前、あるいは幼少時から自覚していた症状を今回初めて医師に相談出来たという被災者も散見されるような医療事情である。…

私は今回このような、日本国内にいては想像し難い、本当に大規模な自然災害と貧しい医療事情を目の当たりにしてきました。被災者は、すでに1ヵ月が経過したとはいえ、まだまだ悲惨な状況下におかれていました。そのような中、母国の危機を救おうという気持ちで参集された現地ボランティアと共に、私は、短期間ではありましたが可能な限り、自分の出来る支援活動を行いそして、時間と資機材が許せば、もっと支援活動を続けたいという思いを残して帰国しました。

なぜ、海外での災害支援活動について前述したような考えを持っていた私が、このような気持ちに変わったのか、我ながら不思議でした。その答えのひとつに、やはり日本をはじめとする医療先進国（と言って差し支えないと思います）と、医療途上国とでは、一朝事ある時の対応能力に大きな差がある、ということがあるからではないかと思います。我が国で生後数十年、医者に会ったことが無い人間が果たして何人いるでしょう。ミャンマーでは、今回のような医療援助がなければ一生涯医者に出会うことが無かったであろう人たちが普通にいる。今回の活動中にも、日本で悲惨な事件や大地震がありました。若干の医療関係者チームが海外の災害医療支援へ派遣されたとして、活動中に国内で災害が起こっても、国内の災害復旧・医療援助や通常の医療サービスに支障を来すなど決してありえないほど日本の医療は充足していると、私は思います。日本にはそれだけの底力があるのだということを、ミャンマーの災害が教えてくれた思いがしています。

困った時はお互いさま、いい言葉だと思います。私には今まで、本当に困っている人たちに出会えていなかったのではないか、と思います。彼らにこそ、救援の手は差し伸べられるべきだと思います。わずかではありますが、差し伸べる手になり得たこと、その機会をAMDAが与えて下さったこと、そしてそれにより狭小な自分の考えを変えるきっかけを得られたことに、非常に感謝しています。今後も、災害などあって欲しくはありませんが、もし求められればいつでも、救いの手の一翼を担えればと思います。

「行こうという気持ち」が大事

医療法人アスカ会看護主任　看護師　小堀他津子

私は今回で、海外での医療支援活動が4度目となりました。これまで、台湾大地震緊急救援（1999年9月）、インドネシア・ニアス島緊急医療支援（2005年3月）、インドネシア・スラウェシ島洪水緊急医療支援（2006年6月）に参加しました。

これまでの活動と大きく違った点が3つあります。

①軍事政権下で活動の制約が多く、ミャンマー入国後4日目からやっと被災地に入れました。保健省の役人の方が同行されました。国際NGOで活動許可が出たのはAMDAだけと聞きました。これもひとえに1995年からミャンマーで支援し続けているAMDAの活動があるからこそだと思います。

②地域のコミュニティ組織がしっかりしている点です。巡回診療において、準備から片付けや診療の受付、患者の誘導など、村人でボランティアをされる方がどこの村でもいらっしゃいました。そして診療が一段落すると、最後に自分たちが受診票を持って並びます。またその村に住む助産師や看護師が一緒に巡回診療補助業務をされていました。

③巡回診療のローカルスタッフのチームと保健省の人たち、日本のチームが違和感なくチームワーク良く活動できていました。過去3回の活動で多く感じた「日本からわざわざ来てくれてありがとう」と言うメッセージではなく、ごく普通にすんなり自然にチームに入れた感じがしました。同じ時代を生きる人として、国境や人種や言葉は関係なく、同じ目的で同じ時間を共有するという連帯感がありました。特に看護師は看護師同士通じるものがあったように思います。何よりも人々が優しく、こちらの方がたくさんお世話をしていただきました。仏教国だからでしょうか。ボランティア精神＝功徳を積む事だと聞きました。

4度の活動を通して、今は「行こうという気持ち」が大事だと考えるようになりました。現地の人と同じ食べ物を食べ、同じように生活する。このような機会が無かったら一生出会わなかったであろう人との出会い。日本の生活や医療のありがたさを痛感し、アスカ会に勤務しているからこそ経験できる貴重な体験と感謝しています。

被災から一ヵ月後の派遣

越谷誠和病院内科医長（呼吸器）　細村　幹夫

羽田から関空に到着した時は、日付が変わろうとしている頃だった。ひとり、国内線ゲートから国際線ゲートへ。薄暗く、誰もいない。薄暗いチェックインカウンターが、もう今日は終わりだよと言っているようだ。調整員の谷口さんが手を振りながら歩いてくる。彼以外は、初めて会うメンバーだ。でも、ミャンマーに行けば知らない人たちばかりじゃないか。きっと、うまくいくさ。

入国許可は下りたが、活動許可が下りない。ヤンゴン事務所で、現地駐在員より、現在の被害状況と今後の活動方針、医療情報などを聞く。むなしい時間が過ぎていく。同行医師が自分は医療活動を行いたい、一日でも早く、長く活動を行いたいと話しているのを、知らないふりをして黙って聞いている。同感。活動許可が下りない以上、どうしようもない、そんな言い訳を考えながら。一日、一日、自分の体力が落ちていくのが分かる。暑さと、高湿度が奪っていく。なんで、災害から一ヵ月以上たったのに、救援活動に来て、何も出来ないんだ。自分の無力さを思い知る。

永遠に続くかと思われた虚無の時間は、活動許可証の発行により一変した。

ヤンゴン管区南方、約70Kmのクンジャンゴン市での、医療活動が始まる。郊外には、東南アジア独特の田園風景が広がる。雨季のため、空は灰白色、黒い雲がところどころで広がっている。あちこちに、ココ椰子の木が群生している。霧雨が、一瞬にして、話も出来ないくらいのスコールになる。

ミャンマーの人々は、僧院、学校、民家と、どこでも、快く診療場所として提供してくれる。現地スタッフ、保健省のスタッフ、村人、現地通訳、みんな、誰が、どうしろと言わなくても、自分の行うべき仕事を見つけている。巡回診療所が、通常の診療所のようになっている。保健省から派遣された医師も、押し寄せる患者を、医師として診療している。情報と全然違うじゃないか。いや、私が、勝手に思い込んでいただけなのだ。みな、家族を、親戚を、友人を、家を、財産を失って辛いはず。それでも、何とか立ち直ろうとしている。気落ちしているはずなのに。活動許可が下りるまでの、自分の気持ちが恥ずかしい。

サイクロンという災害によるものか、だるい、食欲がない、眠れないなど、いわゆる体調不良という不定愁訴の患者が多い。呼吸器系の患者があまりいない。これでは、特別な特効薬はない。なんとか、この状況を乗り越えよう、その気持ちを、診療という形で実行にうつすしかない。

診療の合間に、スタッフで円卓を囲んで昼食となった。世話をしてくれた女性が、自分の子どもが、サイクロンの高潮で流されたことを話した。おじいさんが、椰子につかまりながら、子どもを必死に抱えたと。一晩中、真っ暗で強い風雨の中、瓦礫の混じった汚れた水に漬かりながら、孫を必死に守ろうとしたのだろう。条件が悪すぎる。暗いヤミの中、自分の手から、かわいい孫が少しずつ離れていく。ふたりが離れる瞬間、子どもの手はドロドロだったのか。温かかったのか。その瞬間、互いに相手の名を呼び合ったのか。想像していると、食事が入らない。みんな、同じ思いだったのか、誰かが「昼飯のときに話すことか？」というが、誰も話を止めない。いったい、何万の悲しみが起こったのか。

伯母らしき人が、小さな女の子を連れてきた。当然、女の子は家族を亡くしている。サイクロン後、みんなと遊ばなくなった、ご飯も食べなくなったと。蝋人形のような表情だ。ASD（急性ストレス障害）、あるいはPTSD（外傷後ストレス障害）の状態だ。スタッフみんなが、何かをして、気持ちをやわらげようとするが、全く反応しない。いったい何人、このような子どもがいるのか。保健省の医師に、保健省として対策を考えているのかと直接聞く。あなたの娘さんと、同じ年頃の子どもですよ、これから、何十年もこんな状態でいなければ、いけないのですか？　医師は自分の娘のように女の子を抱きしめると、やさしい口調で言葉をかけながら、必ず対策が取れるように報告すると約束してくれた。

思い通りに行かないことばかりだった。その日、その日で一喜一憂していた。だが、診療活動を通じて、ミャンマーの人たちとのかかわりは、強いものになっていった。帰国の日は、すぐに迫っていた。複雑な思いを抱きながら、ヤンゴンを離れた。ミャンマーの人々から、沢山の助けを受けた。みんな、ありがとう。私は、あなたたちのことを忘れません。被災後、一ヵ月以上たっての派遣の意味が分かったような気がした。

代表事務所　尊厳と信頼の国際ネットワークの拡充を

中国四川省大地震被災者救援活動

死者約7万人に上る大地震（5月12日発生）に対する緊急医療支援活動には、「中国語が話せることと中華人民共和国の医師免許」が求められました。

幸いにも、AMDAには三つの可能性がありました。一つは1996年2月に発生した雲南省大震災緊急救援と四川省・青海省雪害緊急救援を実施した時の人間関係が、四川省成都市と徳陽市に残っていました。二つはAMDA台湾支部で、中国本土での医療ビジネスを展開するために中国の医師免許を持っていました。三つはAMDA上海の存在でした。最初のグループは5月14日、スーファン市の避難所となっていた体育館で、調整員1人・医師1人・看護師2人の4人のチームとして診療活動を開始。

二つ目のAMDA台湾グループは、5月15～16日に成都空港に到着し、綿陽市の避難キャンプでの仮設診療、四川大学西華病院や四川中医薬大学付属病院で、骨折や打撲の整形外科手術や被災者の精神的後遺症の治療を実施。合計11人の医師と8人の看護師を派遣しました。雲南省大震災緊急救援にも参加していただいた汪達紘医師（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学教室助教）を派遣することにより、被災地での調整能力が増強しました。

5月14日から6月30日で、2,289人の外科診察を行ない、535人が心理カウンセリングに参加しました。三つ目のAMDA上海グループには、最後まで救援活動の機会が来なかったのは残念でした。

中国政府は海外からの救援医療チームには厳しい対応でした。2007年9月に締結した台湾の「私立病院・診療所協会」とAMDA本部との災害相互支援協定により、同協会から中国の医師免許を持つ多数の医師と看護師が派遣されたのは幸いでした。

TaiwanIHAの顧問、菅波代表、部長、科長（右から）

菅波茂AMDAグループ代表らが、7月15・16日台北を訪問、台湾の外務省や保健省の職員で構成される台湾国際医衛行動團隊（Taiwan International Health Action: TaiwanIHA）を表敬し、顧問や副会長、国際協力部長、国際協力部科長と対談しました。TaiwanIHAは、AMDAの緊急救援活動を高く評価し、今後の緊急医療チーム派遣を念頭に、両者間で災害相互支援協定を結ぶことが決定しました。協定により、台湾の私立医療機関だけでなく、政府系医療機関からも医療従事者を招集することが可能になります。

今後の予定として、日中青年交流協会との連携によるチベット住民被災地区での巡回診療、四川省中医薬科学院との協定による皮膚病治療の共同研究、金光教平和センターとの生活物資支援を検討しています。皆様方の暖かいご理解とご支援をお願いします。

仮設診療所で診療
（四川省綿陽市安県近郊）

■ご協力ありがとうございました

2008年4月～6月分
（敬称略）

AMDA会員会費納入

294名

青山　澄江　青山　隆一
明石　康　秋田美乃枝
秋山　淳子　穐吉　真
吾郷　達郎　浅井　美栄
浅野　秋夫　足立智恵子
熱田　親熹　熱田　雅夫
阿部　肇子　荒川　晶夫
有森美喜子　飯田　鴻子
井口　惠子　池田　芳幸
池本　新一　池本　則子
石井　彰文　石井　秀昭
石原　節子　磯上　仁志
磯上　博美　板野　勝正
市川かおる　市川　孝子
伊藤　都　井上紀代子
井上　正人　井上美由紀
井上　雪江　猪俣　俊晴
射場　紀夫　今井　和雄
今泉　裕之　今城　清美
入江　節子　岩隈　勉
（医）平山医院
岩渕　千利・満江
岩本　淳　上杉　明久
上田　武郎　上田　千秋
上田　仁志　上田真而子
上中みゆき　埋橋　健吾
海野　尚久　海野　文恵
江川　佳子　江口　貴博
江本　昌彦　遠藤　悦子
大木　英子　大倉　勲
大沢　ミヨ　多田　和子
大多和清美　大月　敬子
大藤　雅子　大永　德彦
大仲　良一　大西　耕六
大野　敦史　大野早百合
岡崎　路子　岡田　節子
緒方　知美
岡山県経済団体連絡協議会
岡山県関係職員労働組合連合
岡山県社教会　籾　智修
奥宮　捷子　尾崎　明子
小笹　俊一　小田　和男
小野三千代　小幡カナエ
小幡　英明　海崎三智雄
角　泰人　懸野　直樹
香河　克政　風間　孝晴
片岡　和男　片山　主計
勝田　吉彰　加藤　和子
加藤　豊子　金光　俊和
（株）コスモス
（株）トンボ
川勝　里美　河口美千子
神澤　正三　岸本　彰五
岸本　恭子　岸本　史子
北川　晶　北沢　信夫
木庭　雅保　木原　真紀
木村　俊夫　久世　靖子
久保　雄二　倉繁　款子
栗林商船（株）
黒住　茂子　桒原　和子
源河　朝明　小池　彰
和　後神　ヒサ
国際ソロプチミスト今治
後藤　壮吾　小林　裕
小林　米幸　駒井　幸子
小松　浩子　小用　行男
是永　武志
最上稲荷山　菩提一心寺
斉藤　和美　斎藤　典章
佐伯　裕子　坂詰　貴司
桜井　智康　さくら学園
佐々木和宏　佐々木恭子
佐々木　勉　佐々木　剛
佐藤　淳一　佐藤　文彦
佐藤美彩佳　椎名　くに
シスメックス（株）IVD
マーケティンググループ
篠原　裕之　柴田　高志
芝原美喜子　宿茂　幸一
白石　恵子　白神　邦彦
申　偉秀　神徳　和郎
神徳　規子　末村　哲治
杉下　圭治　杉本　久和
鈴木　典子　鈴木　道明
鈴木由紀子　須藤　とし
須藤　牧衛　瀬戸美佐子
全国市町村国際文化研修所
千田登志美　曽我　洋一
田口　瑛子　竹内　節男
建部　朋子　田中　啓子
田辺　亮　谷口富美子
田原　隆雄　玉水　明子
田村多加乃　千葉　直美
千代延明憲　月見　省五
佃　建五　傅　幸子
寺井　春枝　土井　利美
渡丸　弘之　中井　晃
永井　龍男　中上　一子
中尾　忠彦　中川恵美子
長阪　信子　長澤　京子
中嶋　淳子
ナカシマプロペラ（株）
中條　博夫　永田　洋子
永島　淳子　中野　宏子
中原　慶亮　中村好至恵
中村　義則　中山　茂樹
中山　正紀　中山美智子
永礼　宏子　夏井　町子
成澤　貴子　難波　晶子
難波　誠治　難波　夏子
新居佐都子　児子　光安
児子　直子　西川きよ子
西崎　哲一　西成　民夫
西野香緒里　布谷　隆子
根本　浩実　野毛　静
野田　都　橋本　誠治
服部　優子　浜崎　俊明
浜元　洋子　早川　達也
林　小夜子　林　貴子
原田智郁子　原田　寛雄
原野　和芳　原野　恵子
原野　昭雄　東山　泰清
一杉　忠　比屋根　勉
平井　泰子　平川　由佳
平野　優子　平松　正勝
福山電業（株）
藤井倭文子　藤井　昌江

AMDA鎌倉クラブチャリティーコンサートX

日中友好音楽交流の集い－四川大地震災害支援－

時　平成20年9月21日(日)　14時00分開演
所　鎌倉芸術館小ホール

王　明君

司会　有田真子

【中国の響き】
中国笛・二胡　王　明君
ピアノ：及川夕美　箏：根津章伶

【音楽の旅】
箏演奏　根津章伶と箏曲絃伶会
長唄　杵屋勘志津と勘志津会
漢詩朗詠　佐藤敏彦　根津章伶（箏）　渡部光（フルート）
舞踊　藤間田京と扇の会

【平和への祈り】
独唱　伊藤咲子（ソプラノ）　伊藤幸子（ピアノ）

チケット　前売　2,500円　当日　2,900円
主宰団体　AMDA鎌倉クラブ
問合先・チケット　AMDA鎌倉クラブ事務局
吉田勲　東京都中央区東日本橋2-4-11-603
連絡電話　090-4667-7298

平成19年度 決算報告

平成19年度も多くの皆さまの温かい御支援により事業を実施することができました。ここに御礼と共に御報告申し上げます。

特定非営利活動法人アムダ：AMDA

収支計算書

自 平成19年4月 1日
至 平成20年3月31日

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
年会費収入	10,533,500	渡航費	16,553,305
補助金	35,284,338	宿泊滞在費	10,037,690
海外契約金	92,000,601	海外交通費	3,392,399
助成金	7,141,246	保険料	4,982,118
寄付金	103,140,567	派遣手当	26,962,025
業務受託収入	34,266,883	海外人件費	53,886,403
販売収入	300,340	運搬費	1,318,233
広告収入	40,000	栄養給食費	2,685,494
雑収入	2,241,757	研修費	11,549,172
受取利息	726,500	車両維持費	5,664,920
マイクロクレジット差額	2,101,604	燃料費	6,406,907
		国際通信費	3,809,865
		国内通信費	3,223,262
		医薬消耗品費	16,243,819
		建設費	25,580,512
		什器備品費	5,212,406
		事務消耗品費	5,234,286
		記録費	284,477
		会議費	4,133,137
		図書購読料	36,159
		人件費	43,432,913
		旅費交通費	3,031,425
		福利厚生費	146,264
		水道光熱費	2,329,619
		委託費	103,067,109
		義援金	937,137
		印刷製本費	3,084,806
		賃損料	12,728,838
		修繕費	538,300
		雑費	3,759,226
		支払手数料	1,251,152
		販売原価	1,260
		負担金	155,000
		租税公課	770,996
		減価償却費	824,308
		固定資産廃棄損	0
		為替差損	7,937,420
		関連事業支援金（注）	1,400,000
収入合計	287,777,336	支出合計	392,592,362
		当期収支差額	▲104,815,026

*関連事業支援金（注）
アムダグループの1つであるAMDA社会開発機構の立ち上げに対する支援金の支出です。

特定非営利活動法人アムダ：AMDA

貸借対照表

平成20年3月31日現在

（単位：円）

（資産の部）		（負債の部）	
科目	金額	科目	金額
Ⅰ流動資産	101,095,202	Ⅰ流動負債	6,943,218
（Ⅰ-1.2.3.）		未払金	6,893,394
現金	291,376	預り金	49,824
外貨現金	782,297		
現金計	1,073,673	Ⅱ引当金	4,677,634
普通預金	49,856,466	プロジェクト引当金	4,677,634
郵便振替	10,131,617		
外貨預金	2,613,749		
外貨定期預金	4,017,208		
預金計	66,619,040	負債合計	11,620,852
Ⅰ-1現金預金計	67,692,713		
Ⅰ-2商品・棚卸資産	1,840,028		
未収入金	532,180		
海外流動資産	31,030,281		
Ⅰ-3その他流動資産計	31,562,461	純資産の部	
Ⅱ固定資産	1,024,782		
Ⅱ-1有形固定資産計	814,782	正味財産	90,499,132
車両運搬具	500,000	（うち当期正味財産減少額）	（▲104,815,026）
器具備品	4,179,398		
減価償却累計額	▲3,864,616		
Ⅱ-2投資その他の資産	210,000		
敷金	210,000		
資産合計	102,119,984	負債及び正味財産合計	102,119,984

平成19年度
特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
決算報告に関する監査報告書

自 平成19年4月 1日
至 平成20年3月31日

上記の決算報告書は、監査の結果適正にして妥当なものと認めます。

平成20年6月17日
監事 田村政志

平成20年6月20日
監事 竹元武士

2008年4～6月の動き

＜講演＞

4/17	岡山大学教養教育科目
4/25	岡山西南ロータリークラブ
4/28	岡山市立西大寺中学校
5/9	清心女子高等学校
5/20	リーガロイヤルホテル　リーガクラブ
5/20	坂出ロータリークラブ
5/22	財団法人操風会岡山旭東病院
6/4	岡山県立総社南高等学校
6/7	人権啓発井原市実行委員会総会
6/8	（特活）金光教平和活動センター設立20周年記念講演会
6/10	高松市立一宮中学校
6/12	岡山後楽園ロータリークラブ
6/14	第26回全国要約筆記問題研究集会
6/15	第31回日本プライマリ・ケア学会学術会議
6/21·28	県立広島大学

＜本部訪問＞

5/27～29	岡山県立岡山操山中学校（職場体験学習）
6/3	岡山市立岡山後楽館高等学校

＜イベント＞

4/6	「ボランティアフェスタinよこはま」にブース出展　横浜産貿ホール
4/20	あすか健康村フェスティバル　（医）アスカ会
5/26	国際保健セミナーin Okayamaホテルグランビア岡山

特定非営利活動法人アムダ：AMDA　役員名簿

理事長	菅波　茂	（医）アスカ会理事長
副理事長	的野　秀利	公設国際貢献大学校　校営管理者
理事	小嶋　光信	両備ホールディングス（株）代表取締役社長
理事	日南　香	元岡山県議会議員
理事	菅波　知子	（社福）遊々会理事長
理事	中西　泉	（医社）慶泉会理事長　町田慶泉病院院長
理事	鈴木　俊介	アスカワールドコンサルタント(株)代表取締役
監事	田村　政志	（株）中国銀行常勤監査役
監事	竹元　武士	（社福）新見市社会福祉協議会会長

ボランティアセンター

人間は誰でも他人の役に立ちたい気持がある

AMDA兵庫県支部

1998年の開院当初から支援してきたAMDAネパール子ども病院が10年の節目を迎えるにあたり、さまざまな企画が進行中。一つは、ネパール子ども病院をモチーフにした絵本を作成中です。内科医で絵本作家のすずキよしひろさんのご協力で、牛を主人公にした子ども向けの絵本がこの秋完成予定。日本語・英語・ネパール語の三言語版を作成し、その翻訳には医療通訳研究会(MEDINT)の方々が協力してくれています。そして、ネパール子ども病院の歩みをまとめたDVDも完成予定。この絵本とDVDは、来年1月17日に現地ネパールで開催予定の「10周年記念セレモニー」にて配布の予定です。さらに飛躍するAMDA兵庫県支部にご声援をお願いいたします。

AMDA兵庫県支部長　江口貴博

AMDA高知クラブ設立

2006年秋に高知で開催された日本小児感染症学会の特別講演で、菅波代表と出会いました。まさにその時から私の中に眠っていたものが目を覚ますが如く、AMDAの活動に強い関心を抱くようになり、昨年夏にネパールのブトワルにあるAMDAネパール子ども病院を見学する機会を得ました。医療事情の違いにも驚きましたが、何よりも日本の日常生活と世界の貧困・紛争・災害はつながっていることを強く感じました。そうなると、じっとしておられず少しずつでも何か出来る事をとの思いから、私の周囲の有志を募り、高知からAMDAの活動を支援するAMDA高知クラブを設立するに至りました。よろしくお願いいたします。

2008年4月1日設立

AMDA高知クラブ

クラブ長　高杉尚志

波田重熙学長とともに募金活動

AMDA神女クラブ

わたしたちAMDA神女クラブ（神戸女子大学）は、ミャンマー・サイクロン／中国四川省大地震で被災された方々に少しでもお役に立ちたいとの思いから、所属の神戸国際教養学科と共に学内募金を行いました。本学も阪神・淡路大震災を経験しており、このたびの災害も人ごとではありませんでした。被災した方々のお役に立てれば、とてもうれしいです。

森川　裕美

地元地域との交流

4月20日、健康福祉と国際交流などを結びつけた総合的な地域イベント「あすか健康村フェスティバル」が、AMDA本部事務局のある（医）アスカ会の地で開催されました。

地元町内会や各グループの代表者で組織された「実行委員会」の事務局が、AMDA内におかれました。地域住民との交流を通して「命と健康」の大切さを体感することを主目的に、地元岡山市一宮平津地区町内会や関係グループがテント村を開設し、25のコーナー(食育・環境・健康・福祉・国際交流・子どもの遊び体験・演芸大会他)が設けられました。グランドゴルフ大会も同時開催され、親子連れなど1,500人が参加、天候にも恵まれ終日賑わいました。

AMDAボランティアセンター

副センター長　村野陽治

2008年度　AMDA神奈川支部総会　報告

5月25日小林国際クリニック（神奈川県大和市）

(1) 2007年度事業報告

①ネパールのダマックAMDA病院付属学校奨学金（毎年、低カーストの女子学生にヒロ・モリ奨学金を贈呈）

②神奈川県海外技術研修員（タイ人看　護師8月～3月に研修）

③横浜国際フェスタ（10月27・28日、パシフィコ横浜展示ホール

当支部では本部の協力を得て、AMDAの広報・啓蒙活動を実施。フリーマーケット開催。

(2) 2007年度会計報告

【収入の部】繰越金　3,636,090円

モリヒロ様寄付金　3,000,000円

横浜フェスタ売上等　17,072円

【支出の部】フェスタ参加費　7,100円

07年度は前年度分の奨学金を充当したので、計上支出なし。

【08年度に繰越】6,646,062円

(3) 2008年度役員（任期2年）

代　表：小林米幸

副代表：松本哲雄・篠原真理子・柘植靖子

会計：岩淵満江　会計監査：武井紀子

(4) 2008年度事業計画

①ネパール、ヒロ・モリ奨学金の対象となる女子学生2人を推薦依頼中だが、今年度は6月現在対象者なし。ヒロ・モリ奨学金の趣旨に沿った使途検討中

②神奈川県海外技術研修員（小林代表が訪タイして調査、看護師を県に推薦）

③横浜国際フェスタ2008（10月25～26日、パシフィコ横浜

(5) 2008年度予算

①奨学金9万円（暫定計上）

②横浜国際フェスタ参加費7,500円等

AMDA神奈川支部副代表 松本哲雄